

研究主題

**子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開
～豊かなかわりと学びを大切にしたい体育学習～****I 研究主題について**

今日の子どもたちを取り巻く環境において、日常的に運動をする機会は、従来に比べかなり減少をしている。その環境において、スポーツクラブ等に入って運動を日常的に行っている児童は、運動の機会と量を確保され体力的にも向上を続けている。しかし、その様なスポーツクラブ等に参加していない子どもたちの運動機会は、児童数の減少、外遊びのできる場所の減少、メディア等の運動遊び以外の娯楽の増加など減少の一途をたどっている。それゆえに、体力・運動能力の二極化が言われて久しい。その様な今日的な課題の中で、指導要領において、「豊かなスポーツライフ」を目指す子どもたちが主体的に「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力」を育成することが体育学習の重要な目標にあげられている。そこで、本研究部においては、研究主題を「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開」とし、副主題として「豊かなかわりと学びを大切にしたい体育学習」として、今日的な課題の中における体育の目標達成に向けて取り組みを考えていきたい。

研究主題における『子どもたちの主体的な活動』とは、新学習指導要領で重視される「生涯にわたって運動に親しむための資質や能力の基礎の育成」をめざす小学校体育において、運動の楽しさや喜び、健康的な生活の経験が、次なる運動及び心身の健康への学びの欲求となった姿であると考ええる。

『確かな力を培う』とは、小学校1年生から4年生の「各種の運動の基礎を培う時期」、5年生から中学校2年生にかけての「多くの領域の学習を経験する時期」を通じて、運動の系統化のもと、指導内容を明確にして、例示の習得を通じ、多様な運動経験、学びの経験、体力の向上が図られた姿および、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成としてとらえる。

副主題においては、運動の特性に触れ、習得する喜び、共に仲間と学ぶ喜び、力いっぱい運動をする喜びを大切にしたい体育学習と考え研究を継続していく。八頭郡では、従来から、技の特性に目を向けた、動きや基礎感覚の系統性をもとにした系統表の作成。子どもの主体的な活動として、言語活動を通じた教え合い、学び合いを重視した取り組み、体育学習の日常化の研究など新しい指導要領に提示されている内容について、取り組みを続けている。

II 研究の視点

県小学校体育研究会の研究方針を受け、

(1) 身に付けさせたい力の系統性を意識した単元の流れの工夫

小学校低学年から小学校高学年の体育学習の中で、あるいは中学校も視野に入れ、どのような力(運動技能・学び方・仲間との関わり方)を身に付けさせていくことが必要なのかを考えていきたい。身に付けさせるべき力を明らかにし、八頭郡で大切にしてきた教師の適切な指導のもと、児童の主体的な活動をつくり、単元構成の工夫をすることで、児童は主体的に体育の学習に意欲を持って取り組めるものと考ええる。

(2) 学習内容を明確化した学習展開の工夫

1単位時間の学習における身に付けさせたい力が明確になることにより、どのようにした児童に身に付けさせたい力がつくのかを考えることができる。そして、児童は意欲的に学習活動に参加することで、確実な力の定着が図られると考える。

(3) 子ども同士の学び合いの充実

さまざまな言語活動を通じて、ねらいを明確にした子ども同士の学び合いの場が多く設定されることにより、身に付けさせたい運動技能・仲間との関わり・次なる運動への意欲が高められると考える。

III まとめ

来年度隼小学校を会場校として、鳥取県小学校体育研究大会(八頭大会)が開催される。八頭郡では、今年度八頭郡小教研体育・特活研究部と隼小学校が一体となって、研究を進めてきた。隼小学校の研究授業には、多くの体育・特活部員が事前研の段階から参加し、授業研究会においても隼小学校の先生方とともに意見交流を行い、体育の研究を深めることができた。この1年間の歩みが、来年度の研究大会において、体育・特活部と隼小学校の研究とが一体化して、学習公開及び実践発表にあらわれてくることと思う。